

ウィーリィ ホームケア

取扱説明書



目 次

○調整方法	P 1
○使用方法	P 2
○移乗方法	P 7
○ブレーキ調整方法	P 9
○運搬・保管方法	P 10
○廃棄方法	P 10
○お手入れ方法	P 10
○点検項目	P 11
○このようなときには	P 12
○注意事項	P 13
○各部名称および梱包内容	P 17
○仕様	P 18

安全にお使いいただくために

この度は当社製品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。ご使用前に取扱説明書を確認の上、正しくお使いください。確認後は、本取扱説明書を大切に保管してください。また利用者様の身体状況や環境が変化した場合には、看護師・福祉用具専門相談員などの専門の方に相談し適切な処置を受けてください。

安全上の注意 必ずお守りください

①利用者様や他の人への危害・財産への損害などを未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

取扱説明書に表示されている記号や用語は、表示内容を見逃し誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次のような表示区分であらわしています。

⚠ 警告：死亡または重傷などを負う可能性を意味します。

⚠ 注意：障害を負うまたは物的損害を発生させる可能性を意味します。

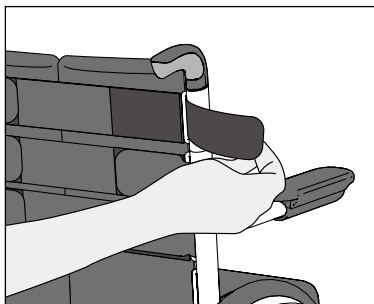
注意：本製品の故障を防止するための注意事項や、より満足に使用していただくためのアドバイスを意味します。

②お守りいただく内容の種類を次の表示区分であらわしています。

⊘：してはいけない「禁止」を意味します。

❗：必ず実行していただく「強制」を意味します。

1 バックサポートの張り調節



バックサポートの張りを随時チェックしてください。必要に応じて調節できます。

- ① 駐車ブレーキのレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- ② 面ファスナーをはがし、バックサポートの張りを調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

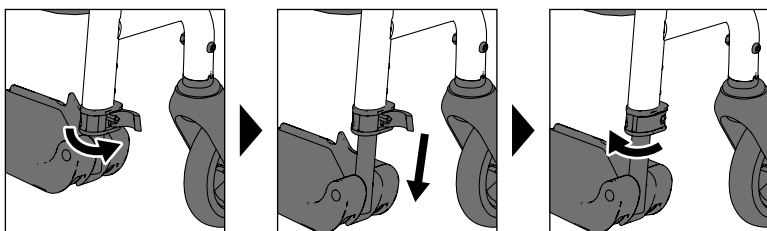
※手でバックサポートを押し、確実に固定されていて、張りが適切であることを確認してください。



注意

面ファスナーに糸くずや汚れなどがついた場合は、接着が弱くなりますので、取り除いてください。

2 フットサポート調整方法

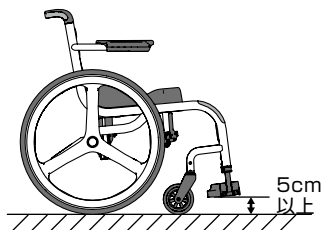


- ① レバーを回転させ、ロックを解除します。
- ② 高さを上下に調整します。
- ③ 高さを決め、レバーを元の位置に戻します。
- ④ フットサポートのレバーを固定してもフットサポートが固定できない場合は、六角レンチ4でレバー固定ボルトを締め付け調整してください。



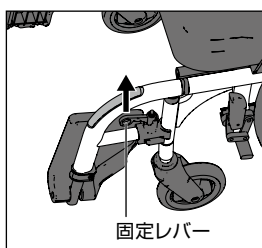
警告

フットサポートの高さは地面より5cm以上で使用してください。路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っ掛かり、急にクルミースが止まり、転倒事故の原因になります。

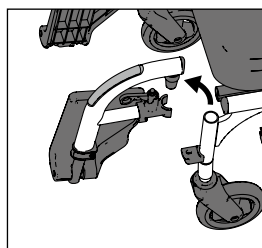
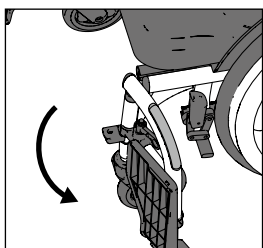


フットサポート部を取り外す場合

フットサポート部が回転し、取り外すことができます。



固定レバー



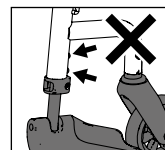
- ① 固定レバーを引いてロックを解除します。
- ② フットサポート部を外側へ回転させます。
- ③ 上に引き抜くと取り外せます。

安全に使用していただくため、使用前に以下の確認をしてください。

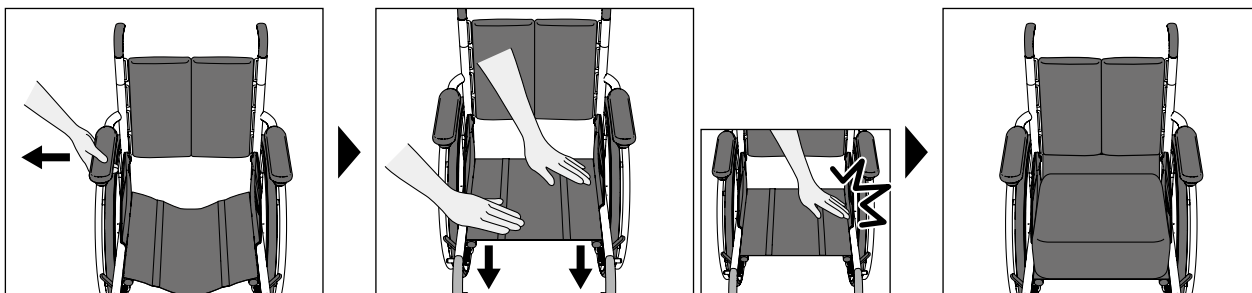
- タイヤの摩耗・亀裂はないか
- ブレーキに異常はないか
- ブレーキをロックしたとき、駆動輪・主輪が回転しないか
- 点検表を参照してください

 **注意**

右図のフットサポート部にある矢印のボルトは調整しないでください。



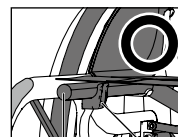
1 クルマイスの広げ方



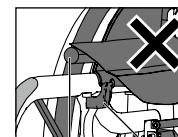
- ①アームサポートを持って広げます。
- ②シートの両脇を上からしっかりと押し下げます。
※シートとサイドガードの間に手をはさまないよう、気をつけてください。
- ③クッションをシートに取り付けます。
クッションには向きがあります。
※クッションうら面に表示があります。

 **注意**

- ①クルマイスを広げるときに、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指をはさんでケガをするおそれがあります。
- ②クルマイスを広げた場合は、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりしていると、転落事故および故障の原因になります。



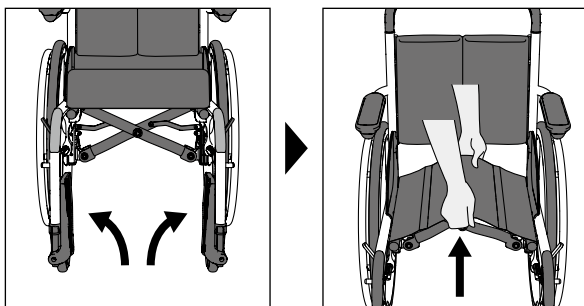
座パイプ



座パイプ

受け

2 クルマイスの折りたたみ方



- ①クッションを取り外します。
- ②フットサポートを上跳到ね上げます。
- ③座面を持って引き上げると折りたためます。

 **注意**

クルマイスを折りたたむ場合は、必ずフットサポートを跳ね上げて行ってください。
フットサポートが降りたままだと、きれいにたたまらず、自然と広がってしまいます。

3 乗る・降りる

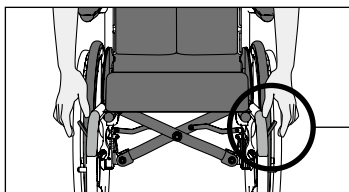
クルマイスに乗る場合



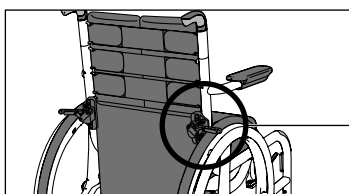
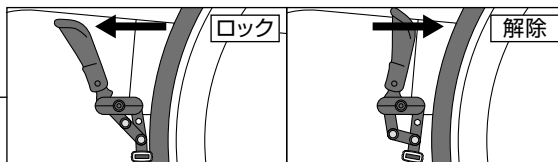
警告

クルマイスに乗る／降りるおよび各部の調整設定は、両輪側とも駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけて、平坦な場所で行ってください。

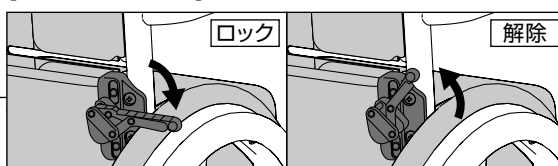
駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックします。



【駐車ブレーキ】

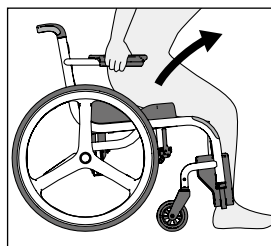
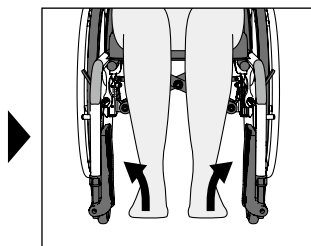
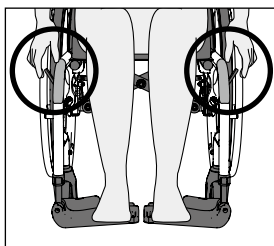


【立位駐車ブレーキ】



※立位駐車ブレーキの操作は、ブレーキ先端部分(丸部)で操作してください。挟み込みに注意してください。

クルマイスから降りる場合



- ① 駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックします。
- ② フットサポートを両側とも跳ね上げます。
- ③ 両手でアームサポートを持ち、ゆっくり立ち上がります。

利用者様が乗り降り／移乗されるときにフットサポート部が邪魔になる場合は、フットサポート部のロックを解除してサポート本体を取り外してください。(P3参照)

※取り外しは介助者が行ってください。



警告

- ① フットサポートの上に乗って、立ち上がったたり乗り込んだりしないでください。
クルマイスがバランスを崩し、転倒事故の原因になります。
- ② 乗り降りする場合は、ゆっくり行ってください。
急に乗り降りすると、ケガをするおそれがあります。
- ③ 乗り降りする場合は、駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキのレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- ④ 乗り降りする場合は、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
ケガをするおそれがあります。
- ⑤ クルマイスへの乗降時および、ベッドへの移乗時などは、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックしてください。
クルマイスが動き、転倒事故の原因になります。



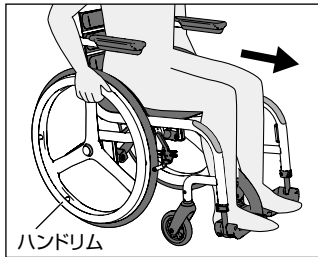
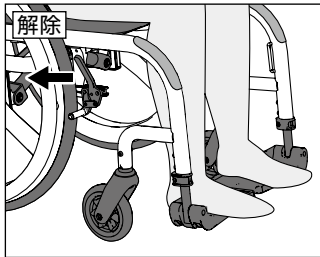
注意

- ① フットサポートを足で上げる場合は、素足で行わないでください。
ケガをするおそれがあります。
- ② 乗り降りや駐車は平坦な場所で行ってください。
クルマイスが動いたりしてバランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- ③ フットサポート部取り外しの際は介助者が行き、利用者様の足部に当たらないよう十分注意し、操作してください。

4 動かし方

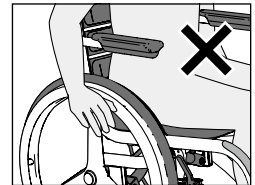
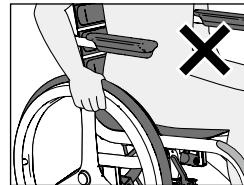
自走用として使用する場合の一般的な動かし方

① 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキを両輪側とも解除します。



② ハンドリムを握り、主輪を回転させて移動します。

※タイヤおよびホイールを握らないでください。



警告

- ① 走行スピードは利用者様および介助者がコントロールできる速度で走行してください。
- ② 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキで減速しないでください。
減速はハンドリムで行ってください。ただし、スピードが出すぎている場合は、摩擦でケガをするおそれがあります。
- ③ 走行中、体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因になります。



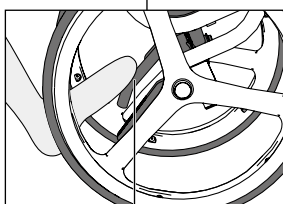
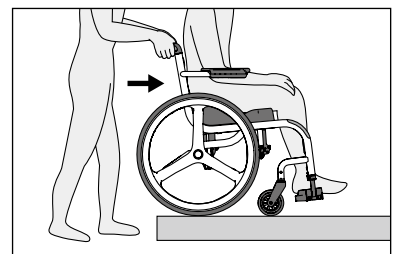
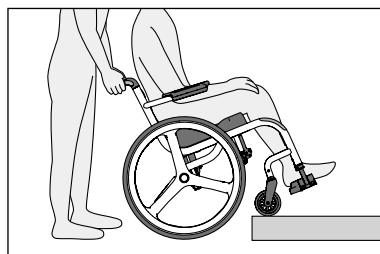
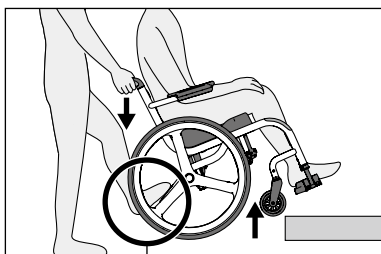
注意

- ① タイヤを持ってクルマイスを操作しないでください。
ブレーキに手が当たったり、摩擦でケガをするおそれがあります。
- ② 主輪に、体の一部や物を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをするおそれがあります。
- ③ バックしながら急停止しないでください。
転落事故の原因になります。
- ④ フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてケガをするおそれがあります。
- ⑤ 足こぎで操作する場合は、フットサポート部を取り外して使用してください。

5 介助の方法

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者が付き添ってください。
介助者が付き添っていない場合は、周りの人に介助をお願いしてください。

● 傾斜している路面 ● 段差乗り越え ● 乗り物への乗車・下車 ● エレベーターの乗り降り



ティッピングレバー

介助者は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏みながらグリップを手前に引いてキャストを上げ、前輪を段差に乗せてから、乗り越えてください。



警告

スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
利用者様がクルマイスから転落し、事故の原因になります。



注意

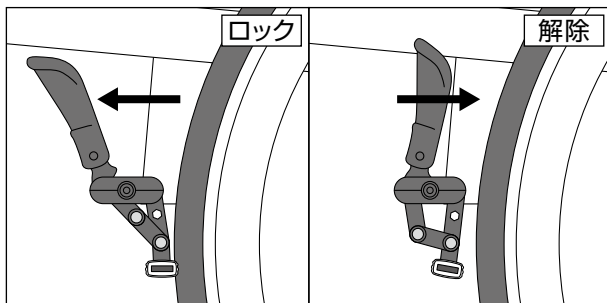
グリップのみで、キャストを上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり折れたりして転倒、事故の原因になります。

6 ブレーキの使用方法

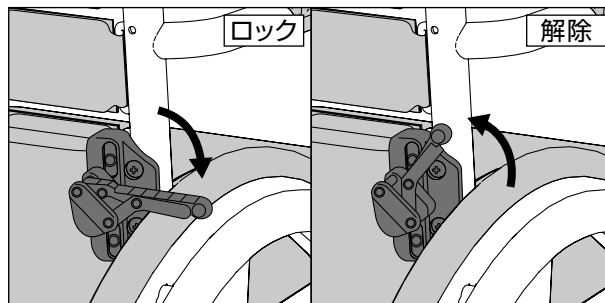
駐車ブレーキの場合は、レバーを前方へ押すとロック、後方へ引くと解除します。

立位駐車ブレーキの場合は、レバーを外側へ倒すとロック、内側へ起こすと解除します。

【駐車ブレーキ】



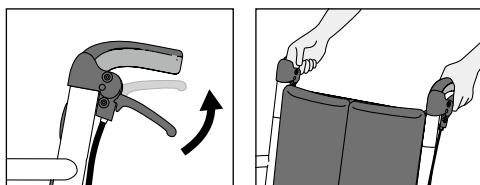
【立位駐車ブレーキ】



警告

クルマイスへの乗降時および、ベッドへの移乗時などは、必ず駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキを両輪側ともロックしてください。
クルマイスが動き、転倒事故の原因になります。

介助ブレーキ付きを使用する場合



介助者が走行中に下り坂で使用することで、安全に速度減速および停止できます。

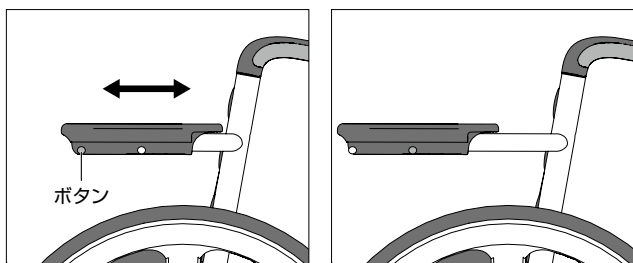
- ①レバーを握るとブレーキがかかります。
- ②レバーを離すと解除します。



注意

- ①急ブレーキをかけないでください。
クルマイスに乗っている利用者が前方へ転倒し、ケガをするおそれがあります。
- ②介助者は、介助ブレーキレバーを両側同時にかけてください。
片側だけでブレーキをかけると、バランスを崩して転倒し、ケガをするおそれがあります。

7 アームサポートのスライド【ボタン操作でのロック解除スライド方法】



アームサポートはスライド式です。

移乗時や用途に応じてスライドさせて使用してください。
アームサポートは乗車時には伸ばして使用してください。

※スライド幅は8cmです。

ボタンを押してロックを解除し、カチッと音がするまでスライドさせてください。



注意

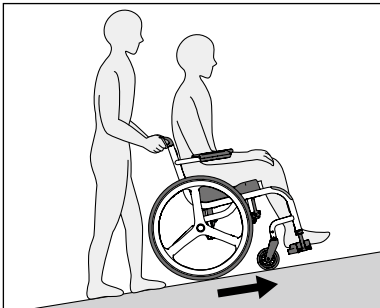
- ①アームサポートが固定されているか確認して使用してください。
- ②ボタンは軽く押さえるだけでロック解除できます。スライドさせる場合は、指をはさみ込まないよう注意してください。

8 使用時の注意

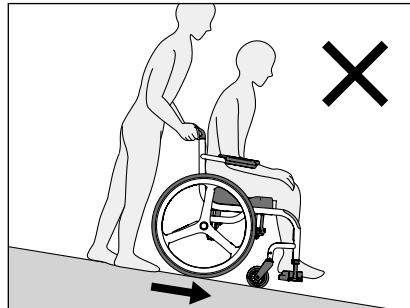
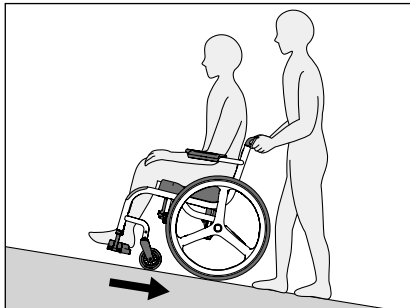
必ず介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りで使用する場合は、必ず介助者が支えて行ってください。

【登り坂】

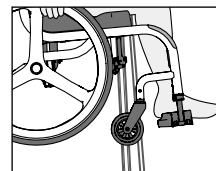
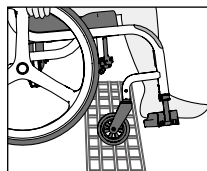


【下り坂】



警告

- ①側溝の格子蓋などで使用する場合は、必ず介助者が支えて行ってください。
クルマイスが急に止まり、転倒事故の原因になります。
- ②急な坂道(勾配4度以上)では使用しないでください。

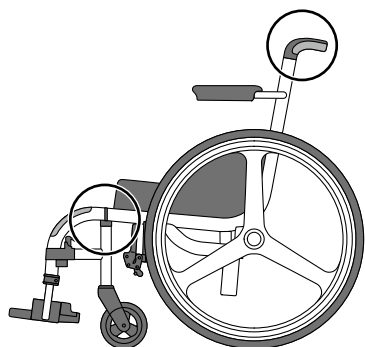
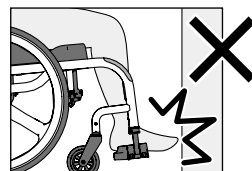
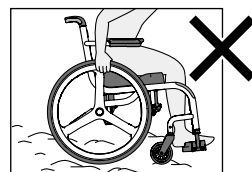


注意

- ①坂道を下るとき介助者は、クルマイスを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因になります。
- ②凸凹のある路面では、前かがみ姿勢で使わないでください。
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因になります。
- ③側溝の格子蓋にキャストが落ち込まないように注意してください。
クルマイスが急に止まり、利用者様の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因になります。

【介助者の方へ】

- ①移動中に利用者様のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- ②フットサポートに利用者様の足が乗っているか確認して走行してください。



クルマイスを持ち上げる場合は、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけて本体フレームを持ち、支えてください。また、フレームを持つ場合は、はさまれないよう注意してください。



警告

アームサポート・フットサポート・バックサポート・フットサポート部を持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、アームサポートやフットサポートなどがクルマイスから外れるなど、大変危険です。3人以上で持ち上げる場合は、本体フレームとティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。また、利用者様の身体の一部を持たないでください。

1 トランスファーボード(付属品)の使用方法

クルマイスとベッドの角度は30度ぐらいを目安にしてください。
初めての使用では、利用者様へ説明の上、使用してください。

- ① フットサポート部のロックを解除してサポート本体を取り外してください。

※取り外しは介助者が行ってください。

フットサポート部の取り外しの場合は、利用者の脚部に当たらないよう十分注意し、操作してください。

- ② フットサポートを両方とも跳ね上げ、足元を動きやすくしてください。

- ③ ベッド側のアームサポートを縮めてください。

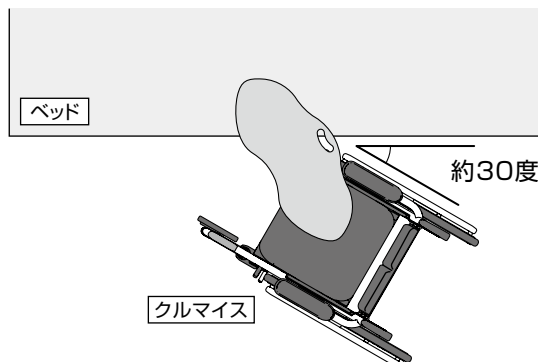
- ④ 移乗先が低くなるように高さを調整してください。

- ⑤ お尻が半分乗るまでボードを敷いてください。

- ⑥ 移乗先へ体を傾け、お尻を滑らせてください。

- ⑦ 移乗先へお尻が全て乗っているか確認ください。

- ⑧ ボードを立てるようにして抜いてください。



使用方法の
動画はこちら



注意

- ① 使用前にひび割れなどの破損がないか点検してください。

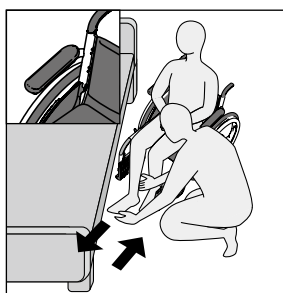
- ② 抜き差ししやすい形状になっており、多少変形することがあります。変形が大きい場合は、手で慣らしてから使用してください。

2 ベッドへの移乗

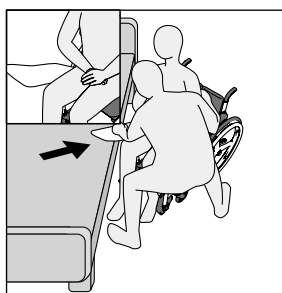
ベッドに移乗する場合は、クルマイスをベッド脇に付けて、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけます。
ベッドとクルマイスの角度は30度ぐらいを目安にしてください。

【介助移乗】と【自立移乗】は、トランスファーボード(付属品)を使用することで容易になります。

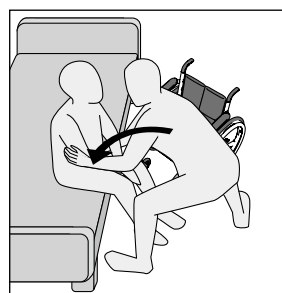
介助移乗の場合



- ① ベッド側のアームサポートを縮め、ベッド側の足を一歩前に出して、反対側の足を引きます。



- ② お尻とクッションの間にボードを差し込みます。



- ③ 右肩と左腰に手を添え、ベッド側の足を軸足にしてボード上を滑らせます。



- ④ ボードを引き抜き、クルマイス裏側のポケットに収納して完了です。

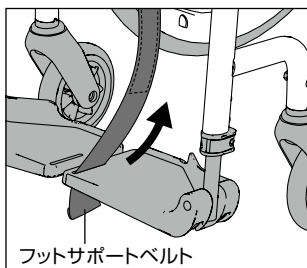
移乗方法

介助移乗で足が後ろに入り前方に転倒するおそれのある方には、フットサポートベルトを取り付けてください。

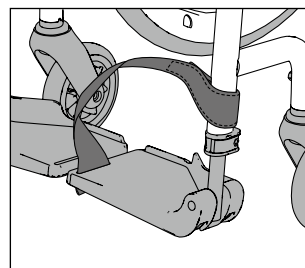
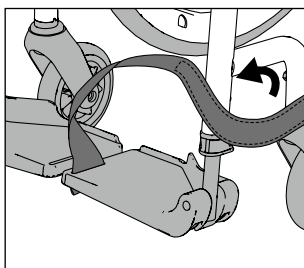
【フットサポートベルト取り付け方法】



警告



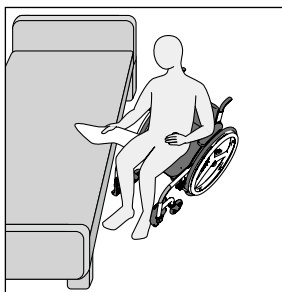
フットサポートベルト



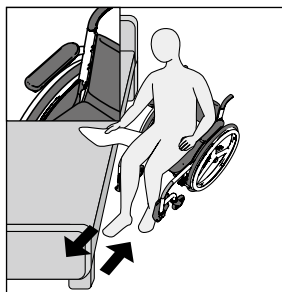
① フットレスト先端の穴にフットサポートベルトの面ファスナー側を裏から差し込みます。

② フレームへ巻き付け、面ファスナーで固定してください。

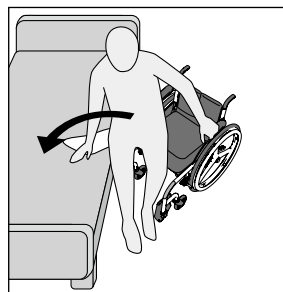
自立移乗の場合



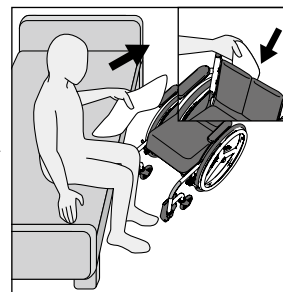
① お尻とクッションの間にボードを差し込みます。



② ベッド側のアームサポートを縮め、ベッド側の足を一歩前に出して、反対側の足を引きます。

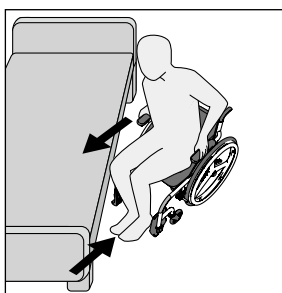


③ ベッド側の足を軸足にしてボード上を滑ります。

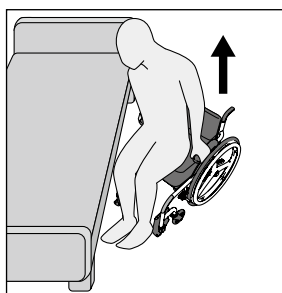


④ ボードを引き抜き、クルマイス裏側のポケットに収納して完了です。

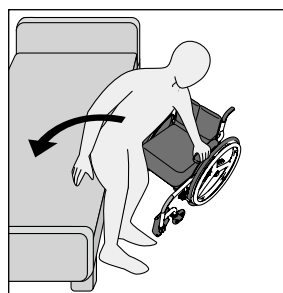
立位移乗の場合



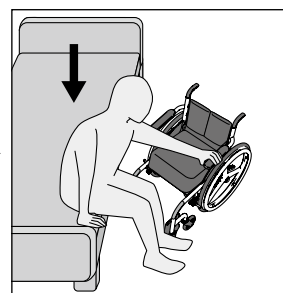
① 立ち上がりやすいように身体を前に出して足を引きます。



② アームサポートに体重を掛けて立ち上がります。



③ 身体の向きを変えます。



④ ベッド上にゆっくりと座って完了です。

※使用しないトランスファーボードは、背面のポケットに収納してください。



注意

① 移乗する場合は、両輪側とも駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをロックしてください。

② トランスファーボードを使用する場合は、アームサポートを縮めてロックしてください。

ブレーキ調整方法

駐車ブレーキの場合

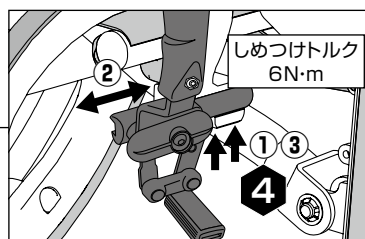


- ①ブレーキの矢印の位置のボルト(2ヶ所)を六角レンチ(4mm)でゆるめます。
- ②ブレーキの前後位置を調整します。
- ③適正な位置に調整後、ボルト(2ヶ所)を6N・mのトルクで確実にしめてください。

※ボルトをしめすぎると破損するおそれがあります。

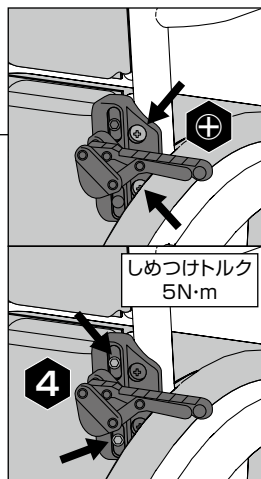
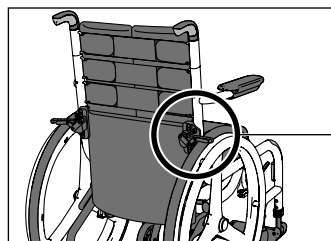
※ボルトがゆるんでいないか、定期的に確認し、ゆるんでいればしめ直してください。

【ブレーキ(2本×2ヶ所)】



※ブレーキはボルトをゆるめると前後にスライドし、調整できます。

立位駐車ブレーキの場合



ブレーキ本体を取り替える場合

- ①ブレーキの矢印の位置のボルト(2ヶ所)を⊕ドライバーでゆるめます。
- ②パーツを取り外して新しいパーツを取り付け、ボルト(2ヶ所)を⊕ドライバーでしっかりしめてください。

ブレーキの制動力を調整する場合

ブレーキの固定・解除を繰り返してタイヤへの押し当て量を調整し、六角穴付ボルト(4mm、2ヶ所)を5N・mのトルクで確実にしめてください。

※ボルトをしめすぎると破損するおそれがあります。

※ボルトがゆるんでいないか、定期的に確認し、ゆるんでいればしめ直してください。

運搬・保管方法

運搬方法

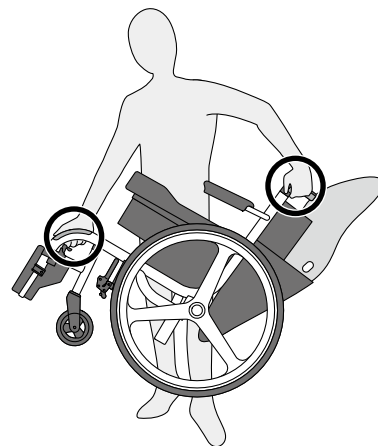
運搬する場合は、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけて、折りたたんで本体フレームと奥側のハンドグリップを持って運んでください。

保管方法

折りたたんで保管する場合は、横向きにはせず、縦置きにて保管してください。

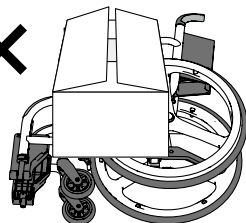
次のような場所では保管しないでください。故障の原因になります。

- ・ 雨に濡れる場所
- ・ 直射日光が当たる場所
- ・ 湿気の多い場所
- ・ 高温になる場所(45℃以上)
- ・ 炎天下



注意

クルマイスを横向きに倒して、上に物を置かないでください。重みで主輪フレームが曲がり、故障の原因になります。



廃棄方法

お住まいの各自治体の指示にしたがい、処分・廃棄してください。
地球環境のため、放置はしないでください。

お手入れ方法

消毒する場合は、アルコール消毒剤などを柔らかい布に吹き付けてから清拭してください。

清拭する場合は、中性洗剤を水で薄め柔らかい布に浸し、よく絞ってから清拭してください。仕上げに乾いた布で拭き取ってください。

クッションカバーは、カバーを取り外して家庭用洗剤で洗濯してください。漂白剤、柔軟剤は使用しないでください。



- 次亜塩素酸を使用する場合は、6%水溶液を100～200倍に希釈して清拭し、仕上げに水拭きしてください。
- 有機溶剤(シンナーやベンジンなど)、強酸性洗剤は使用しないでください。
- オゾン消毒は金属部分に影響を与えるため、使用しないでください。
- 60℃以上の温度を加えないでください。
- 金属ブラシ、ナイロンたわしなどはキズをつけるため、使用しないでください。

点検項目

下記の点検項目を確認してください。

異常があった場合は、(株)モルテン健康用品事業本部お客様窓口までご相談ください。

点検項目		確認	
1	キャスト(前輪)の確認 ・亀裂やキズはありませんか？ ・摩耗していませんか？ ・スムーズに回転しますか？ ・スムーズに旋回しますか？	YES ☐	NO
2	主輪(後輪)の確認 ・亀裂やキズはありませんか？ ・摩耗していませんか？ ・スムーズに回転しますか？ ・ホイールにキズなどありませんか？	YES ☐	NO
3	ハンドリムの確認 ・亀裂やキズはありませんか？	YES ☐	NO
4	本体の確認 ・ゆがみなどありませんか？ ・ボルト・ナットの緩みはありませんか？ ・スムーズに広げることができますか？ ・座パイプが受けに収まっていますか？ ・スムーズにたためますか？	YES ☐	NO
5	駐車ブレーキ・立位駐車ブレーキの確認 ・ブレーキは効きますか？ ・レバー操作はスムーズに行えますか？ ・ブレーキにガタつきはありませんか？	YES ☐	NO
6	介助ブレーキの確認 ・ブレーキは効きますか？	YES ☐	NO
7	バックサポートの確認 ・破れや破損はありませんか？ ・面ファスナーが簡単に外れたりしませんか？	YES ☐	NO
8	フットサポートの確認 ・固定ボルトの緩みはありませんか？ ・フットサポートの上げ下ろしはスムーズにできますか？ ・フットサポートに破損や亀裂はありませんか？	YES ☐	NO
9	アームサポートの確認 ・ロックできますか？ ・アームサポートに破損・亀裂はありませんか？	YES ☐	NO
10	グリップの確認 ・グリップに破損や亀裂はありませんか？	YES ☐	NO
11	付属品の確認 ・トランスファーボード(付属品)にひび割れなどの破損はありませんか？ ・クッション、バックサポートに汚れ、損傷はありませんか？	YES ☐	NO

症 状	確 認	処 置
走行操作が重い	主輪・キャストに髪の毛・ビニールなどが巻きついていませんか？	巻きついた異物を取り除いてください。
	駐車ブレーキ・立位駐車ブレーキをロックしていませんか？	駐車ブレーキ・立位駐車ブレーキを解除してください。(P5参照)
真っ直ぐ走らない	路面が傾斜していませんか？	(株)モルテン健康用品事業本部お客様窓口までご相談ください。
	キャスト(前輪)が片減りしていませんか？	
	タイヤ(後輪)が片減りしていませんか？	
	キャスト(前輪)の回転に左右差がありませんか？	
	キャスト(前輪)・タイヤ(後輪)の計4輪がきちんと接地していますか？	
	駐車ブレーキ・立位駐車ブレーキを片側のみロックしていませんか？	駐車ブレーキ・立位駐車ブレーキを解除してください。(P5参照)
駐車ブレーキが効かない	駐車ブレーキ・立位駐車ブレーキがタイヤに当たっていますか？	(株)モルテン健康用品事業本部お客様窓口までご相談ください。
	駐車ブレーキ・立位駐車ブレーキがガタついていませんか？	
	タイヤは摩耗していませんか？	
介助ブレーキが効かない	ブレーキワイヤがゆるんでいませんか？	ワイヤ調整を行ってください。
異音がする	可動部分のサビ・汚れ・油切れなどによる摩擦音が出ていませんか？	給油してください。
	ボルト類のゆるみにより、クルマイスがガタついていませんか？	(株)モルテン健康用品事業本部お客様窓口までご相談ください。
	フレームがゆがんでいませんか？	
クルマイスがたためない	フットサポートを跳ね上げていますか？	フットサポートを跳ね上げてください。
フットサポートの固定ができない	フットサポートの固定ボルトがゆるんでいませんか？	クランプ固定ボルトの増し締めをしてください。(P1参照)

上記の処置で直らなかった場合、またはその他の現象の場合は、
(株)モルテン 健康用品事業本部 お客様窓口までご相談ください。

株式会社 モルテン 健康用品事業本部 お客様窓口
TEL(082)578-9226

〈電話による受付時間〉月曜日～金曜日／9:00～17:00 ※祝祭日、年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休業日など弊社休業日を除く



警告

- ① **クルマイスのセッティングは、必ず医療従事者と相談の上、行ってください。**
- ② **故障または異常がある場合は、使用しないでください。**
事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ③ **本製品を改造しないでください**
改造によってクルマイスの部品の破損・脱落などで安全性が低下し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ④ **フットサポートの上に乗って、立ち上がりたり乗り込んだりしないでください。**
クルマイスがバランスを崩し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑤ **クルマイスのシートの上で立ち上がらないでください。**
- ⑥ **階段・エスカレーター・段差のある場所などの悪路では使用しないでください。**
転倒や転落事故につながるおそれがあり、大変危険です。
- ⑦ **MRI室で使用しないでください。**
非磁性ではありません。磁気に反応するため、大変危険です。
- ⑧ **道路の通行では、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください)**
道路交通法規を守らない場合は、交通事故の原因になります。
※クルマイスは道交法上、歩行者と定められています。
- ⑨ **坂道の登り下りの場合は、介助者が支えて行ってください。(P6参照)**
スピードが出たりバランスが不安定になり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑩ **クルマイスに乗る／降りるおよび各部の調整設定は、両輪側とも駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけて、平坦な場所で行ってください。**
(P1～P3、P5参照)
クルマイスが動き、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑪ **最大利用者体重を守ってください。**
最大利用者体重は100kgです。(積載物を含む)
- ⑫ **定期的に不具合がないか確認してください。**
各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ⑬ **利用者様の体調が著しく低下しているときは、十分注意して使用してください。**
- ⑭ **クルマイスはバランスをくずして転倒する場合があります。利用者様・介助者とも、クルマイスが転倒しないように十分注意して使用してください。**
- ⑮ **クルマイスを持ち上げる場合は、駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけて本体フレームを持ち、支えてください。また、フレームを持つ場合は、はさまれないよう注意してください。(P6参照)**
アームサポート・フットサポート・バックサポート・フットサポート部を持たないでください。
これらの箇所を持ち上げると、アームサポートやフットサポートなどがクルマイスから外れるなど、大変危険です。
3人以上で持ち上げる場合は、本体フレームとティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。
また、利用者様の身体の一部を持たないでください。
- ⑯ **本説明書に記載以外の使用はしないでください。**
- ⑰ **踏台・脚立・手すり・歩行器のかわりに使用しないでください。**
- ⑱ **子供に操作をさせないでください。**
- ⑲ **二人乗りなど多人数での使用はしないでください。**
- ⑳ **利用者様・介助者とも、クルマイス使用時には靴をはいてください。素足でクルマイスを使用しないでください。**
思わぬケガのおそれがあります。
- ㉑ **本製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。**
不明な事柄につきましては、お問い合わせください。
- ㉒ **坂道を前向きで下らないでください。**
利用者様が前方へズレたり転倒するなど、大変危険です。
- ㉓ **シート以外の部分に腰掛けしないでください。**
- ㉔ **介助者は、絶対にクルマイスに乗って介助しないでください。**
- ㉕ **急な坂道(勾配4度以上)では使用しないでください。**
- ㉖ **グリップに寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。**
- ㉗ **本説明書に記載されている調整、設定箇所以外の調整は行わないでください。また各部調整によっては部品が干渉する場合があります。確認して調整してください。**
事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。

注意事項

- ②⑧大きな段差を無理に乗り越えないでください。
- ②⑨発進するときや段差を乗り越えるときには、キャストのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、キャストのタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故につながるおそれがあり大変危険です。
- ③⑩クルマイスに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。
クルマイスに座ったまま前方の地面に置いてあるものを拾うなどの動作は、クルマイスごと転倒し大変危険です。
- ③⑪傾斜地・坂道での走行は特に注意してください。
傾斜地や坂道ではクルマイスが予想外の方向に進んだり、スピードが出やすいなど大変危険です。また、クルマイスからすり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。
- ③⑫クルマイスの機能と操作をよく理解し、介助を行ってください。
- ③⑬部品に破損や損傷がある場合は、(株)モルテン健康用品事業部お客様窓口までご相談ください。
- ③⑭次のような場合は走行を避けてください。
・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・積雪 ・凍結 ・その他危険が予想される場合
夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。雨天は路面が滑りやすくなり危険です。
- ③⑮次のような場所では厳重な注意が必要です。
・エレベーター ・クルマイス対応の福祉車両 ・その他危険が予想される場所
介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながら使用してください。
- ③⑯スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やケガにつながるおそれがあります。
- ③⑰乗り降りする場合は、駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキのレバーに体重をかけないでください。
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- ③⑱乗り降りする場合は、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
ケガをするおそれがあります。
- ③⑲介助移乗で足が後ろに入り前方に転倒するおそれのある方には、フットサポートベルトを取り付けてください。
- ④①フットサポート部を開いた状態で走行しないでください。
事故やケガにつながるおそれがあります。
- ④②タイヤの摩耗に注意してください。
タイヤが摩耗すると、ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、(株)モルテン健康用品事業部お客様窓口までご相談ください。
- ④③走行中に駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキを使用しないでください。
転倒などの事故につながるおそれがあります。
- ④④専用オプション品以外は取り付けしないでください。

トランスファーボード(付属品)

- ①本製品は、クルマイス・ベッド間などの移乗を補助するスライディングボードです。本来の目的以外に使用しないでください。
思わぬ事故やケガにつながるおそれがあります。
- ②本製品を改造しないでください。
破損や事故につながるおそれがあります。
- ③本製品には正しい向きがあります。裏表を間違えて使用しないでください。
思わぬ事故やケガにつながるおそれがあります。
- ④最大使用者体重は100kgです。耐荷重を超える状態では使用しないでください。
思わぬ事故やケガにつながるおそれがあります。
- ⑤必ず裏面の滑り止め部が車椅子のフレームや座面、ベッド上のマットレスなどにあたるように使用してください。
思わぬ事故やケガにつながるおそれがあります。
- ⑥破損やひび割れなどの異常がある場合は、使用しないでください。
思わぬ事故やケガにつながるおそれがあります。



注意

- ① バックサポート・バックサポートパイプ・グリップなどに重いものを引っ掛けないでください。
クルマイスが不安定になり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ② クルマイスを広げたり折りたたんだりする場合は、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指をはさんでケガをするおそれがあります。
- ③ タイヤを持ってクルマイスを操作しないでください。
ブレーキに手が当たり、ケガをする原因になります。
- ④ スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをするおそれがあります。
- ⑤ 走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑥ 主輪に、体の一部や物を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因になります。
- ⑦ バックサポートパイプのみで、キャストを上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり、折れるなどし、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑧ スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
利用者がクルマイスから転落し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑨ 凸凹のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒して事故の原因になります。
- ⑩ 火気の近くに置かないでください。
シートが燃え火災の原因になります。
- ⑪ 利用者の移動目的以外では、使用しないでください。(台車の代わりに使用しないでください)
- ⑫ クルマイスを広げた場合は、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりしていると、事故や転倒および故障などによりケガをするおそれがあります。
- ⑬ フットサポートが固定されているか、確認して使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因になります。
- ⑭ フットサポートの高さは地面より5cm以上で使用してください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり、急にクルマイスが止まり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑮ アームサポートが固定されているか確認して使用してください。
- ⑯ 乗り降りや駐車は平坦な場所で行ってください。
クルマイスが動いたりしてバランスを崩し、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ⑰ 乗り降りする場合は、必ずフットサポートを両方跳ね上げて、フットサポートパッドをたたみ、足部に当たらないように注意してください。
フットサポート、パッドに足が当たりケガをするおそれがあります。
※皮膚などが弱い方は靴下などを着用して保護してください。
- ⑱ フットサポート部の着脱、フットサポート跳ね上げ、フットサポートパッドの折りたたみの調整は介助者が行い、利用者の脚部等を傷つけないよう十分注意して操作してください。
- ⑲ クルマイスの各部の調整、設定は可能ですが、設定の組み合わせにより部品が干渉する場合があります。確認して調整してください。
- ⑳ 坂道を下るとき介助者は、クルマイスを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ㉑ 側溝の格子蓋にキャストが落ち込まないように注意してください。
クルマイスが急に止まり、利用者の体が前方に傾き、転落事故や転倒などによりケガをするおそれがあります。
- ㉒ 介助者は、移動中に利用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- ㉓ 介助者は、フットサポートに利用者の足が乗っているか確認して走行してください。
- ㉔ 面ファスナーに付いた糸くずや汚れを取り除いてください。
接着力が弱くなり製品機能を損なうおそれがあります。
- ㉕ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、ケガをするおそれがありますので十分注意してください。
- ㉖ 本製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。
本製品が破損するおそれがあります。

注意事項

- ②⑦ 水にぬれたままにしておくと、本製品に錆びやカビが出るおそれがあります。
ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。
- ②⑧ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に本製品を放置しないでください。
フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えるおそれがあります。
- ②⑨ クルマイスを投げたり落したり、衝撃を加えないでください。
フレームが歪んだり、破損の原因になります。
- ③⑩ 急発進・急停車・急な方向転換をしないでください。
- ③⑪ 荷物などを持って、片手で走行しないでください。
片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。
- ③⑫ 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
ブレーキが変形・破損するおそれがあります。
- ③⑬ 下記のような場所にクルマイスや部品を放置しないでください。
・車道に近い場所 ・路面に段差や凹凸のある場所 ・海沿いの屋外(潮風の当たる場所) ・ほこりの多い場所
・非常口、消火器、消火栓の前 ・直射日光の当たる場所(車内も含む) ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
・子供がいたずらをするおそれのある場所 ・人通りのある場所 ・湿気の多い場所 ・雨、風のあたる場所
・坂道 ・暑い日や寒い日の戸外
- ③⑭ 使用前には各部を点検してください。
クルマイスは“動くもの”ですので、長時間の使用などにより劣化が生じます。使用前の点検を励行し、異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止してください。
- ③⑮ 安定した姿勢で座ってください。
座面深く左右にかたよらずに座ってください。また、介助者は、利用者様が安定した姿勢で座っていることを確認してください。
- ③⑯ 姿勢保持クッションを使用する場合は、主輪などにはさみ込まれないよう注意してください。
- ③⑰ 認知症の方が使用する場合は、必ず介助者が付き添ってください。
クルマイスのシート、部品などを飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除される場合がありますので、十分注意してください。
- ③⑱ 駐車ブレーキおよび立位駐車ブレーキは必ず手で操作してください。
足などで操作するとブレーキが破損するおそれがあります。
- ③⑲ 介助者は、利用者様がクルマイスに安全に座っていることを確認してから操作してください。
利用者様の身体の一部または衣服がタイヤ・スポーク・キャストおよび地面・建物・通行者に触れたりはさまったりしないよう注意してください。
- ④① 靴を履かずにフットサポートに乗せて使用する場合は、十分注意してください。
壁や柱で足をケガしたり、足がフットサポートから落ちて骨折するなど、大変危険です。
- ④② クルマイスの乗り降りや移乗などクルマイスが不安定になりやすい場合は、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。
- ④③ 利用者様の心身の状況、症状を充分考慮し、適切な介助を行ってください。
- ④④ クルマイスをたたむ場合は、シートパイプを握らないでください。
手をはさみ危険です。
- ④⑤ 操作中に異常な音や振動が発生した場合は、即時に使用を中止してください。
事故やケガにつながるおそれがあります。
- ④⑥ 使用する前に主輪・キャスト・駐車ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいる場合は、増しじめをしてください。
- ④⑦ フットサポートを足で上げる場合は、素足で行わないでください。
ケガをするおそれがあります。
- ④⑧ フットサポートの下には足を入れないでください。
足を地面でこすったり、フットサポートやキャストなどに足をぶつけてケガをするおそれがあります。
- ④⑨ フットサポートのすき間に手や足を入れないでください。
ケガをするおそれがあります。
- ④⑩ シンナーやベンジンなどの溶剤は、使用しないでください。
本製品を傷めるおそれがあります。

トランスファーボード(付属品)

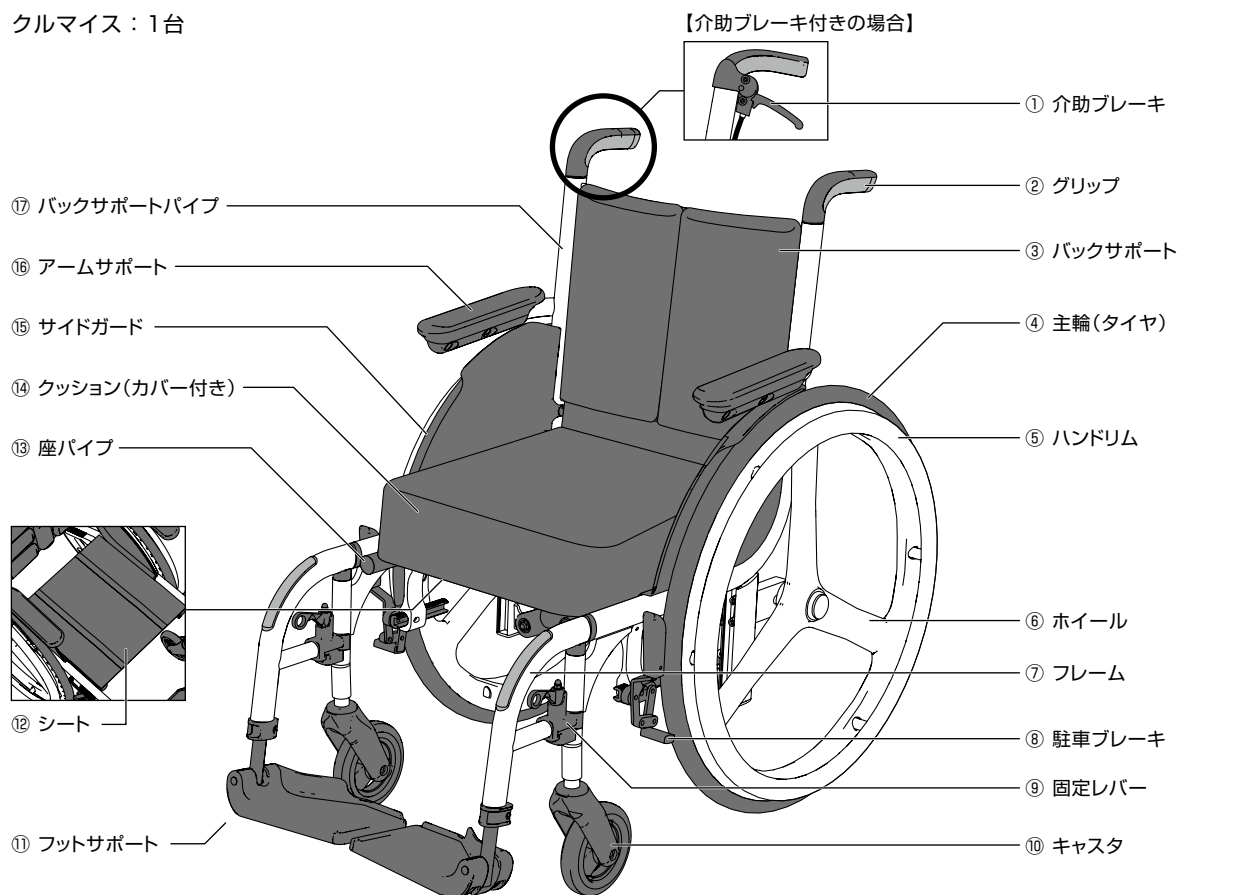
- ① クルマイスは両輪側とも駐車ブレーキまたは立位駐車ブレーキをかけ、動かないようにしてください。
- ② 必ず衣類などを着用して使用ください。
直接皮膚が触れた状態でボードを移動するとケガのおそれがあります。

各部名称および梱包内容

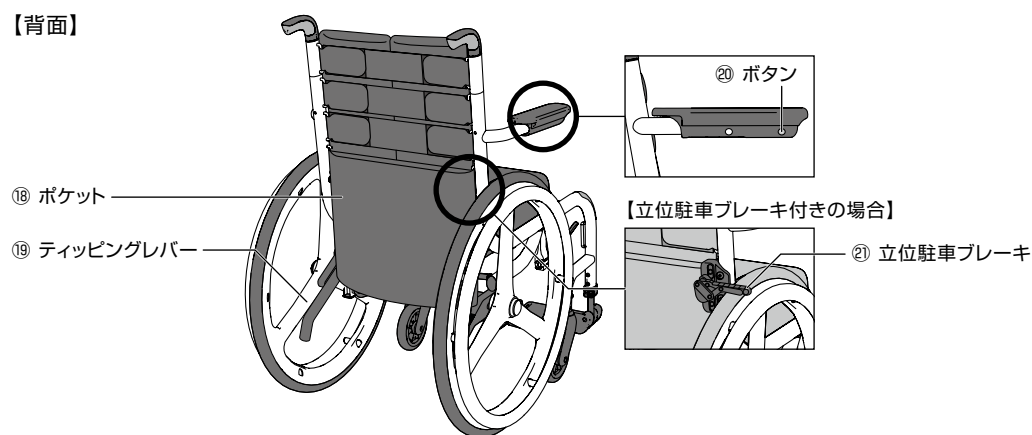
以下の部品が全てそろっているか、破損・変形などしていないかを確認してください。

万が一、部品の不足・破損があった場合は、(株)モルテン健康用品事業本部お客様窓口にご連絡ください。

クルマイス：1台

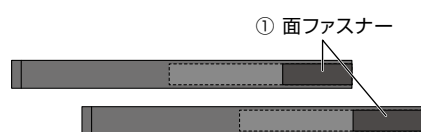


【背面】

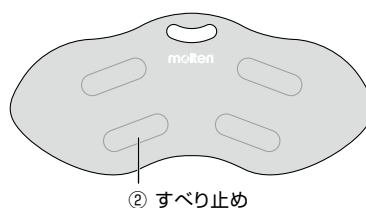


付属品

フットサポートベルト：2本



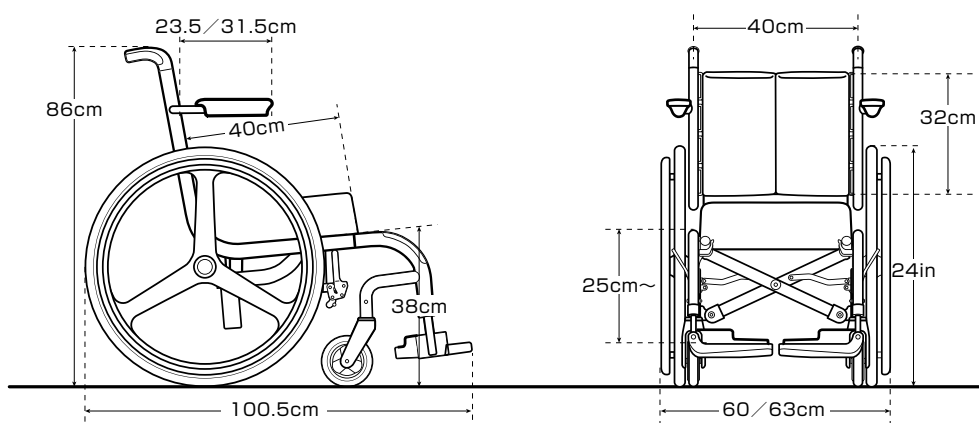
トランスファーボード本体：1枚



取扱説明書兼保証書：1部



仕様



ウィーリィ ホームケア

品番 MWHEHC / MWHEHCRB (立位駐車ブレーキ付き) / MWHEHCSB (介助ブレーキ付き) / MWHEHCSR (介助・立位駐車ブレーキ付き)

- 素材：フレーム＝アルミ
シート＝軟質樹脂（補強仕様）
クッション・バックサポート＝ポリエステル・ポリウレタン
ハンドリム＝ポリプロピレン
- サイズ：本体＝全長100.5×全高86×全幅60cm / 63cm（介助ブレーキ付き）
前座高＝38cm、後座高＝35cm
シート幅＝40cm
シート奥行＝40cm
アームサポート高＝26.5cm（2段階）
バックサポート高＝43cm
フットサポート高＝25cm
折りたたみ幅＝34cm
クッション＝幅38×長さ40×厚さ10cm
- 重量：16.7～17.2kg
- キャスタ：5in、ノーパンクタイヤ
- タイヤ：24in、ノーパンクタイヤ
- 最大使用者体重：100kg

開発・製造元

ISO9001 認証取得

ISO13485 認証取得

※床ずれ防止マットレス・体動センサの設計、
製造および付帯サービスにて取得

本製品の取扱説明書は下記QRコード
からダウンロードいただけます。



取扱説明書

株式会社 **モルテン**

健康用品事業本部

www.molten.co.jp/health

東京 札幌 仙台 埼玉 名古屋 大阪 広島 福岡

製品他、各種お問い合わせは

〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目10-97-21

TEL.082-578-9226

E-mail:health@molten.co.jp

〈電話による受付時間〉月曜日～金曜日 / 9:00～17:00
※祝祭日、年末年始、ゴールデンウィーク、夏季休業日など弊社休業日を除く

2024.01